

平成26年度現地協議会開催概要

野菜需給協議会（座長：東京農業大学客員教授中村靖彦、事務局：野菜需給部）では、協議会会員（消費者団体、生産者団体、流通・小売団体等）が現地に赴いて生産者団体や生産者と直接意見交換を行うことにより、野菜生産現場への理解をさらに深めることを目的として、平成27年2月25日（水）に静岡県下において、現地協議会を開催した。

1. 意見交換会及び集出荷場視察(セルリー等)

J A浜松とぴあ西宮農センターにおいて、静岡県経済連、J A担当者、たまねぎ部会長等の概況説明の後に、意見交換と集荷場の視察を行った。

意見交換では、静岡県経済連から、県農業の約3割は野菜の販売、多品目で小ロットが特徴で、特産である白たまねぎは遠州灘の砂地、長い日照時間を活かして日本一早い出荷（1月4日から3月）で有利販売を実施していると説明があった。J A浜松とぴあから、管内におけるたまねぎを中心とした野菜生産販売等の状況、産地の強化を図るため農地集積円滑化事業、（株）とぴあファームの設立、就農者支援のため新規就農塾、園芸教室等に取り組んでいると説明があった。また、たまねぎ部会長等の生産者からもたまねぎの生産状況等の説明が行われた。

協議会会員からは、産地の将来目標、担い手確保対策、規格外品の活用、製品の差別化や販促、再エネ・省エネの取組、冬場の野菜価格の高さなど、多くの質問や意見があり、J A担当者や生産者が予定時間をかなり超えてこれに応じるなど、相互理解と情報共有を図る上で、有意義で活発な意見交換会となった。



意見交換会の様子



産地概況を説明するJ A担当者



質問する協議会会員

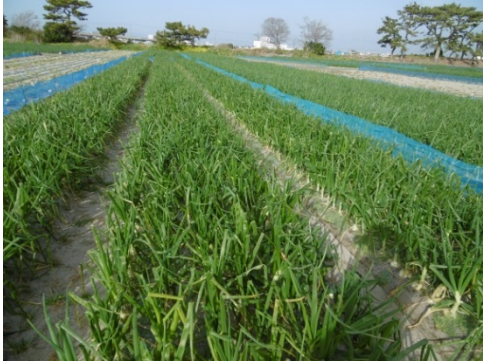


集出荷施設を視察する協議会会員

2. たまねぎほ場の視察

JA浜松とびあ管内の「白たまねぎ」、「黄たまねぎ」のほ場を、たまねぎ部会長等の説明を受けながら視察した。

管内のたまねぎは、海岸に面した砂地地帯で栽培するため、生育がよく水分が多く、辛みが少なく甘みが強いのが特徴。また、今年は、昨年の台風被害の影響で例年にならない不作となり、1月の注文に応じ切れない状況となっている。



白たまねぎのほ場の様子



ほ場で意見交換する協議会会員

3. ファーマーズマーケット白脇店の視察

平成24年11月オープンのJAで4店目の直売所である「ファーマーズマーケット白脇店」(JA販売高21億円、同店6億円)を視察した。同店は、売場面積約5百㎡、出荷会員約4百名で約百品目の地場産の野菜等を取扱っている。(地場産率93%)



白脇店の様子



新たまねぎを手にする会員